教育　おおらか・さわやか・きわやかな大崎の教育

問 教育委員会管理課　☎476-1111(410)

◆たくさんの方々においでいただいた県民週間

11月１日（日）から７日（土）の『大崎町学校参観週間』では、たくさんの町民の皆様に学校を参観していただきありがとうございました。

期間中、道徳の一斉授業参観をはじめ、各教科の授業参観や日ごろの学習の成果を発表する学習発表会などが行われました。

また、各学校の特色として、祖父母参観や餅つき、グラウンドゴルフ、秋祭りなどの世代間交流なども行われ、子どもたちも来校くださった皆様と楽しく交流することができました。参加してくださった町民の皆様にも、普段は見ることのできない子どもたちの授業の様子や先生方の頑張りを見ていただくことができました。

来年度も同じ時期に学校参観週間がありますので、お誘いあわせの上、ぜひ町内の全学校を参観ください。

まなびの窓　おしえの庭

『稚心を去る』

No.34　大崎中学校　校長　中山　春年

先日、鹿児島市内の某私立高校に行く機会がありました。放課後でしたが、部活に遅れないよう必死で練習場へ向かう生徒、練習で走っている生徒、下校中の生徒等の行き交うどの生徒もしっかり挨拶してくれました。特に感心したのは、車で通り過ぎようとしている私にバス停で待っている生徒たちがしてくれたことです。また、ある部に本校出身のＡ君が元気でいい表情をして取り組む姿があり、（夏に校長室へ挨拶に来た時の人懐っこい姿ではなく）そこには目を見張る彼の成長した『たくましい姿』がありました。

さて、江戸時代末期に『橋本左内』という人物がおりますが、西郷隆盛が安政の大獄で亡くなった彼の死に無念の涙を流した人物と言われています。彼は 15 歳の時、『啓発録』という本の中で自分が立派な武士になるために『稚心を去る』と記しています 。

『稚心』とは『幼稚な心、子どもっぽい気持ちや態度、自己中心的な幼児性』で、わかりやすく言うと『わがまま、自分勝手、甘え、人を頼ること、すぐに人のせいにする、自分の思い通りにならないとすぐ切れる、弱い者いじめをする』姿のことです 。

私見ですが『稚心』は誰もがもつものであり、大切なことはそれをいつ捨て去るのかではないでしょうか。幼児期には家族に甘え、わがままを言い、自分勝手な言動をとり、自分の思い通りにならないとすぐ切れる等を数多く経験すればいいと思います。しかし、幼児期から親をはじめとし関わる大人や周囲の子どもによって、併せて通用しないことの経験も数多く体験させられることが大事だと考えます。幼・小・中・高校期にその稚心の一つひとつを捨て去り、成長期に応じた大人に近づいていくものだと思います。Ａ君は、橋本左内同様、今、夢実現に向けて厳しい練習や寮生活の中で多くの『稚心』を捨て去ろうとしています。